

ILSI Japan 活動報告<2023>

バイオテクノロジー研究会

活動ビジョン・ゴール	年度目標
<p>バイオテクノロジーを用いた持続可能な食料の安定供給への貢献を念頭に、バイオテクノロジーの重要性の理解を深め、バイオテクノロジー応用食品・作物・添加物等の安全性・活用に関する調査研究と情報提供を産・学・官連携及び国際的ネットワークを通して推進し、科学的根拠に基づく国際的に調和した安全性評価法や活用法の発展に貢献する。</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. ERA プロジェクト調査報告 (年 4 回) 2. バイオテクノロジー応用微生物を利用して発酵生産された食品・食品添加物等の安全性に関するワークショップ 3. 第 16 回 ISBR (International Society for Biosafety Research) 2023 への安全性評価の専門家の派遣 4. 遺伝子組換えナタネの ERA に関する研究成果の論文発表

	進捗・課題	予定・行動計画	関連団体等
1, 2 月	<p>ERA プロジェクト調査報告 No.62 号 (2023 年 3 月) の発行、官庁を訪問し、内容説明し提供。</p> <p>ERA プロジェクト調査報告 No.63 号のレビューのための 10 報の論文抄録の事前監修及び会員による事前確認。</p> <p>ERA プロジェクト調査報告 No.64 号の論文抄録の収集中。</p> <p>ISBR2023 への派遣者ためのロジスティクス、Parallel Workshop においてゲノム編集の規制や国際的試験要求のセッションの参加依頼、別途 Bayer Crop Science の研究施設見学の調整等</p>	<p>ERA プロジェクト調査報告 No.63 号のレビュー (3/2)、監修、印刷</p> <p>ERA プロジェクト調査報告 No.64 号の論文抄録の収集及び事前監修依頼</p> <p>ISBR2023 への派遣者全体会議のアレンジ・旅程の確認、発表や情報収集の分担等</p>	<p>農林水産省 厚生労働省 内閣府食品安全委員会 環境省 文部科学省 経済産業省 筑波大学環境系 & つくば機能植物イノベーション研究センター (T-PIRC) 明治大学農学部 国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構 (農研機構) 作物研究部門 横浜国立大学大学院環境情報研究院 千葉大学大学院園芸学部</p>
3, 4 月	<p>3 月 2 日第 1 回バイオテクノロジー研究会開催 (オンライン・会議室 ハイブリッド形式)。</p> <p>ERA プロジェクト調査報告 No. 64 号の論文抄録の収集中。</p>	<p>ERA プロジェクト調査報告 No. 63 号のレビュー (3/2)、監修、印刷。</p> <p>ERA プロジェクト調査報告 No. 64 号の論文抄録の収集及</p>	<p>農林水産省 厚生労働省 内閣府食品安全委員会 環境省</p>

	<p>ISBR2023 (4/30-5/4) の派遣者ためのロジスティクス、Parallel Workshop においてゲノム編集の規制や国際的試験要求のセッションの参加依頼、別途 Bayer Crop Science の研究施設見学の調整等。4月28日、29日、派遣者および一部同行者出発。</p> <p>バイオテクノロジー応用微生物を利用して生産された食品・食品添加物の安全性に関する WS (2022年12月開催) の「イルシー」誌最終原稿確認。5月発刊。</p> <p>同 WS の日程調整開始。明治大学中島教授、千葉大学児玉教授参加ご了承。</p>	<p>び事前監修依頼。</p> <p>ISBR2023 への派遣者全体会議のアレンジ・旅程の確認、発表や情報収集の分担等。</p> <p>バイオテクノロジー応用微生物を利用して生産された食品・食品添加物の安全性に関する WS 準備開始。</p>	<p>文部科学省 経済産業省 筑波大学環境系 & つくば機能植物イノベーション研究センター (T-PIRC) 明治大学農学部 国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構 (農研機構) 作物研究部門 横浜国立大学大学院環境情報研究院 千葉大学大学院園芸学部</p>
5, 6月	① ISBR2023 (4/30-5/4) に5名の先生方を、バイテク技術を応用	ERA プロジェクト調査報告 No. 64 号のレビュー、監修、	農林水産省 厚生労働省

	<p>して開発された植物、動物、微生物の最新レギュラトリーサイエンスに関する知見を取得していただくとともに、日本のレギュラトリーサイエンスに関する知見を海外で紹介いただくことを目的に招聘。3演題のご発表もいただいた。また、ILSI Japan としても GM 植物の ERA に関するパラレルセッションを企画、運営した。</p> <p>② 6月19日第2回バイオテクノロジー研究会開催（オンライン・会議室 ハイブリッド形式）。</p> <ul style="list-style-type: none"> • ERA プロジェクト調査報告 No.63 号の発行、No. 64 号の review。 • ISBR2023 の報告。ERA 報告書特別号として 2023 年後半に発行予定。 • ERA 報告事業レビューアール先生のご退任および後継に関して議論。来年度からの変更を見込む。 • 「バイオテクノロジー応用微生物を利用して生産された食品・食品添加物の安全性に関する WS」（2022 年 12 月開催）の「イルシー」誌最終原稿確認。5 月発刊。 <p>2023 年度の同 WS の日程が 2023 年 11 月 27 日もしくは 12 月 4 日に絞られたことが報告され、のち、12 月 4 日開催に決定。明治大学中島教授、千葉大学児玉教授参加ご了承。</p>	<p>印刷。</p> <p>ERA プロジェクト調査報告 No. 65 号の論文抄録の収集及び事前監修依頼。</p> <p>ISBR2023 報告書発行へ向けた編纂。</p> <p>「バイオテクノロジー応用微生物を利用して生産された食品・食品添加物の安全性に関する WS」準備。</p>	<p>内閣府食品安全委員会 環境省 文部科学省 経済産業省 筑波大学環境系&つくば機能植物イノベーション研究センター (T-PIRC) 明治大学農学部 国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構(農研機構)作物研究部門 横浜国立大学大学院環境情報研究院 千葉大学大学院園芸学部</p>
7, 8 月	<ul style="list-style-type: none"> • ERA プロジェクト調査報告 No. 64 号のレビュー、監修 • ERA プロジェクト調査報告 No. 65 号の論文抄録の収集及び事前監修依頼。 • ISBR2023 の報告書 ERA 報告書特別号及び「イルシー」誌フラ 	<p>ERA プロジェクト調査報告 No. 64 号の発行、配布。</p> <p>ERA プロジェクト調査報告 No. 65 号の論文抄録の収集及び事前監修依頼。</p> <p>ISBR2023 報告書発行へ向けた編纂及び「イルシー」誌への</p>	<p>農林水産省 厚生労働省 内閣府食品安全委員会 環境省 文部科学省 経済産業省</p>

	<p>ッシュ・レポートの原稿作成。</p> <ul style="list-style-type: none"> • ERA 報告事業来年度からの新レビューアー先生の契約準備。 • 「バイオテクノロジー応用微生物を利用して生産された食品・食品添加物の安全性に関する WS」(2023年12月4日開催予定) 準備。 	<p>フラッシュ・レポートの寄稿。</p> <p>「バイオテクノロジー応用微生物を利用して生産された食品・食品添加物の安全性に関する WS」 準備。</p>	<p>筑波大学環境系&つくば機能植物イノベーション研究センター (T-PIRC)</p> <p>明治大学農学部 国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構(農研機構)作物研究部門 横浜国立大学大学院環境情報研究院 千葉大学大学院園芸学部</p>
9, 10 月	<ul style="list-style-type: none"> • 9月20日第3回バイオテクノロジー研究会開催(オンライン・会議室 ハイブリッド形式)。 • ERA プロジェクト調査報告 No. 65 号のレビュー、監修。 • ERA プロジェクト調査報告 No. 66 号の論文抄録の収集及び事前監修依頼。 • ISBR2023 の報告書 ERA 報告書特別号及び「イルシー」誌フラッシュ・レポートの印刷手配。 • ERA 報告事業来年度からの新レビューアー先生の契約。 • 「バイオテクノロジー応用微生物を利用して生産された食品・食品添加物の安全性に関する WS」(2023年12月4日開催予定) 準備。 	<p>ERA プロジェクト調査報告 No. 65 号の発行、配布。</p> <p>ERA プロジェクト調査報告 No. 66 号の論文抄録の収集及び事前監修依頼。</p> <p>「バイオテクノロジー応用微生物を利用して生産された食品・食品添加物の安全性に関する WS」 準備。</p>	<p>農林水産省 厚生労働省 内閣府食品安全委員会 環境省 文部科学省 経済産業省 筑波大学環境系&つくば機能植物イノベーション研究センター (T-PIRC)</p> <p>明治大学農学部 国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構(農研機構)作物研究部門 横浜国立大学大学院環境情報研究院 千葉大学大学院園芸学部</p>
11, 12 月	<p>バイオテクノロジー応用微生物を利用して発酵生産された食品・食品添加物等の安全性に関するワークショップ開催。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 日時：12月4日 月曜日 14:00-17:30 • Zoom と会場(東京都中央区京橋)ハイブリッド形式 	<p>ERA プロジェクト調査報告 No. 66 号のレビュー、発行、配布、送付先の見直し。</p> <p>「バイオテクノロジー応用微生物を利用して生産された食品・食品添加物の安全性に関する WS」 実施。</p>	<p>農林水産省 厚生労働省 内閣府食品安全委員会 環境省 文部科学省 経済産業省 筑波大学環境系&</p>

	<p>・参加人数：126名 (産：官：学=15：2：1)</p> <p>・遺伝子組換え食品・添加物に係る制度について 厚生労働省 健康・生活衛生局 食品基準審査課 新開発食品保健 対策室 室長 佐野 喜彦 氏</p> <p>・遺伝子組換え食品等の食品健康 影響評価について 内閣府食品安全委員会事務局 評 価第二課 新食品等係長 山口 拓朗 氏</p> <p>・科学の進歩とレギュラトリーサ イエンスから予想する未来のGM 食品・添加物の規制 (仮題) 千葉大学 大学院園芸学研究院 先端園芸工学講座 児玉 浩明 教授</p> <p>・高度精製食品・食品添加物 最 近の審査の現状について (仮題) 明治大学 農学部 農芸化学科 微生物生態学研究室 中島 春紫 教授</p> <p>11月にERAプロジェクト調査報 告書特別号 第16回 International Society for Biosafety Research (ISBR) Symposium 参加 報告書が発行された。</p> <p>12月19日に第4回バイオテクノ ロジー研究会開催 (オンライン・ 会議室 ハイブリッド形式)。</p> <p>・林先生ご逝去につきERAプロジ ェクト調査報告の今後について議 論。</p> <p>2024年度より、報告書名を「植物 バイオテクノロジー報告書」に変</p>		<p>つくば機能植物 イノベーション 研究センター (T-PIRC)</p> <p>明治大学農学部 国立研究開発法人 農業・食品産業技 術総合研究機構 (農研機構)作物 研究部門</p> <p>横浜国立大学大学 院環境情報研究 院</p> <p>千葉大学大学院園 芸学部</p>
--	--	--	---

	更。 ・ ISO TC34/SC16 に関する情報が共有された。		
--	-------------------------------------	--	--